

森公美子 交通事故の夫 車いす介護の日々

「自分の家族がこういうことになるのは、まったく想像していなかった…」
涙ながらにこう語っていた森公美子（47才）。

昨年8月、夫のAさん（50才）が、東京・渋谷区の自宅からコンビニに買い物に出たところでオートバイと接触。頭を強く打ち、救急車で都内の病院に運ばれた。森は当時、

ワイド 7つの アンフェア



テレビの取材に冒頭のように悲痛な思いを告白したのだ。

「自分の家族がこういうことになるのは、まったく想像していなかった…」
涙ながらにこう語っていた森公美子（47才）。
昨年8月、夫のAさん（50才）が、東京・渋谷区の自宅からコンビニに買い物に出たところでオートバイと接触。頭を強く打ち、救急車で都内の病院に運ばれた。森は当時、

「一時は脳神経外科のICU（集中治療室）にはいり、医師からは『深刻な状態』といわれたそうです。2日後に一般病棟に移ったものの、話をするのもおぼつかなく、手を動かすのもやつとの状態だったんです」（テレビ局関係者）
骨折の箇所も複数あり、かなりの重傷だったという。森が、イベント会社に勤めるサラリーマンのAさんと結婚したのは01年11月。出会ったのは結婚よりも15年ほど前で何度かの別れを繰り返し、

「1年半ほど前、Aさんの仕事で幸せを射止めた。紆余曲折は結婚後もあった。」
「1年半ほど前、Aさんの仕事

「森さんは時間がある限り病院に駆けつけて、リハビリと一緒にやっています。ほぼ毎日ですよ。バラエティーの収録とか舞台の練習とか、かなりの量のスケジュールをこなしながらも本番が終わるとAさんのために病院に駆けつけている。もう高齢のAさんのお母さんもお心配して、たび

がうまくいかなかったことがあったんです。ほとんど取り入はゼロ口。そんなときでもAさんは、いつかは公美子の月収ぐらい年収をもらってみせる。って、笑い飛ばしていたんです。森さんも、それを冗談にして周囲に語っていたほど。どんなときでも、夫婦で助け合い明るく乗り越えてきたんです」（別のテレビ局関係者）
あれから、7か月——夫は現在も闘病生活を送っている。「いまだに、退院のメドさえまったくたっていないんです。もちろん少しずつ回復はしているんですよ。でも、頭を強く打ったショックが思いのほか大きかったみたいですからね。いまも車いすでの生活を続けていて、ようやく歩くことができるようになった、という

「森さんは時間がある限り病院に駆けつけて、リハビリと一緒にやっています。ほぼ毎日ですよ。バラエティーの収録とか舞台の練習とか、かなりの量のスケジュールをこなしながらも本番が終わるとAさんのために病院に駆けつけている。もう高齢のAさんのお母さんもお心配して、たび

「森さんは時間がある限り病院に駆けつけて、リハビリと一緒にやっています。ほぼ毎日ですよ。バラエティーの収録とか舞台の練習とか、かなりの量のスケジュールをこなしながらも本番が終わるとAさんのために病院に駆けつけている。もう高齢のAさんのお母さんもお心配して、たび

状況なんです」（森の知人）
いまもリハビリ生活を続けているAさん。「くどうちあき脳神経外科クリニック」の工藤千秋院長は、事故とその後の様子について一般論としてこう話す。
「事故によって入院し、車いすの生活を送っているということは、頭を激しく打ったことにより脳挫傷を起したか、頸椎または脊髄を損傷した可能性が高いといえます。限られた情報で判断すれば、



脳挫傷を起こしていたのではないかと思われます。この場合、現在も車いすを利用しているということですが、足を動かすことを命令する脳の部分に損傷を負ったためと考えられます。一般的に脳挫傷の場合、程度によりますが脳外科に入院するのは1か月半ぐらいだったとしても、多くの人が6か月ぐらいリハビリ

「森さんは時間がある限り病院に駆けつけて、リハビリと一緒にやっています。ほぼ毎日ですよ。バラエティーの収録とか舞台の練習とか、かなりの量のスケジュールをこなしながらも本番が終わるとAさんのために病院に駆けつけている。もう高齢のAさんのお母さんもお心配して、たび

「森さんは時間がある限り病院に駆けつけて、リハビリと一緒にやっています。ほぼ毎日ですよ。バラエティーの収録とか舞台の練習とか、かなりの量のスケジュールをこなしながらも本番が終わるとAさんのために病院に駆けつけている。もう高齢のAさんのお母さんもお心配して、たび

「森は、所属事務所を通じて「いま地道にひとつひとつやっていますので、ご心配ありません」と本誌に